

★ R.I. 2660 INTERACT・NEWS ★



SCRUM

No.
32

海外研修報告
年次大会報告
クラブ活動報告



報告書

ホストクラブ：大阪桐蔭中学校高等学校インターアクトクラブ

スポンサークラブ：大東ロータリークラブ

目次

* 発刊にあたって	1
* 2006～2007年度 新入生歓迎会報告	2
* 2006～2007年度 海外研修報告	5
* 2006～2007年度 年次大会報告	14
* 民間国連ヤング大使滞在記	24
* 各インターアクトクラブ活動報告	28
清風学園 I.A.C.	
大阪桐蔭中学・高等学校 I.A.C.	
浪速中学・高等学校 I.A.C.	
四天王寺高等学校・中学校 I.A.C.	
金光八尾中学・高等学校 I.A.C.	
相愛中学・高等学校 I.A.C.	
* インターアクトクラブ名簿	34
* 編集後記	41

〈SCRUM No.32〉 発刊にあたって

大和川の北部に位置する大阪府北部を主とする、国際ロータリー第2660地区のインターアクトクラブは、現在7校、7提唱ロータリークラブが存在しており、インターアクトクラブの生徒数は100名、顧問の先生が20名、提唱ロータリークラブの委員が36名、地区委員が7名、合計163名が活動しております。

主な活動内容は8月の海外研修、11月の年次大会、3月のSCRUM発行、6月の新入生歓迎会のほか、各校で地域周辺の清掃や、障害者施設の慰問、被災地区支援募金など、活発な活動を行っております。

8月の海外研修ではタイの高校を訪問して見聞を広めたあと、同地区の他のインターアクトクラブやロータリアンなど150名が参加して交流するなど、みんな大忙しでした。

また11月の年次大会では障害者の方たちと一緒に、風船バレーや、車椅子を体験するなど意義深い催しもありました。前年度6月の新入生歓迎会ではみんなでバーベキューを楽しみ他校との交流を深めました。

このようなクラブ活動が、日頃は勉強に明け暮れる生徒たちにとって、たとえ僅かの時間でもこの社会に生きている事を実感し、人間として成長していくことが出来ればと願っております。

本号はこのようなインターアクトクラブの様子がたくさん描かれて降りますので是非ご覧になってください。

なお、末尾になりましたが、今年度活動されましたインターアクトクラブと顧問の先生方、また今回SCRUMの編集発刊にあたり担当いただきました大阪桐蔭中高校の顧問の先生、提唱の大東ロータリークラブ関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

有難うございました。

2007年1月30日

国際ロータリー第2660地区
インターアクト委員会
委員長 田中 啓之

新入生歓迎会

平成18年6月4日(日)
於 大阪府立羽衣青少年センター

新入生歓迎会にあたり

地区インターアクト委員会委員長 田中 啓之

皆さんこんにちは。

本日は、国際ロータリー第2660地区インターアクトクラブの新入生歓迎会です。皆様にはなにかとお忙しい中ご参集いただきましたことを厚く御礼申し上げます。関係者一同でインターアクトクラブの新入生を歓迎いたします。

申すまでもなくインターアクトクラブは、地域社会への奉仕と国際理解を深めることを主な目的とします。

活動内容も去年8月のシンガポール海外研修や、11月の御堂筋の清掃をテーマにした年次大会、今年の3月の活動報告誌SCRUMの発行など、大変積極的に活動していただきました。有難うございます。

また各学校でいろいろな形で募金や奉仕活動が行われております。この間も『ダメ。ゼッタイ。』薬物乱用防止活動の民間国連ヤング大使に、インターアクトクラブから鈴江さんが選ばれて、ウイーンの国連事務局に募金目録の贈呈に行かせてもらいました。

インターアクトクラブは、このような活動を通して夫々の人格を養い、立派な社会人として育つことを願っております。

本日は7つの学校から新入生を含めたインターアクターと、顧問の先生方及び提唱クラブのロータリアンが多数見えております。どうぞこの機会にお互いの交流を深めていただきますようお願い申し上げます。

遅れましたが、新入生歓迎にご尽力いただきました相愛中学高等学校および大阪ロータリークラブの皆様には大変お世話になり感謝申し上げます。

本日は皆様どうぞゆっくりと交流をお楽しみください。

新入生歓迎会

相愛中学高等学校インターアクトクラブ会長 合田 宏江

6月4日、インターアクトクラブの今年度初めての行事である新入生歓迎会が、浜寺公園青少年センターで行われました。ロータリークラブの田中委員長をはじめ、元大阪ロータリー委員長塩野様、現委員長上野様、その他多くのロータリーの方々にご参加いただきました。そして参加校は相愛・四天王寺・四天王寺羽曳ヶ丘・清風・大阪桐蔭・金光八尾で浪花高校は残念ながら不参加でした。

私達、相愛生はホスト校ながら皆新入生でした。でも、積極的に話をしたり、名札を配るなどすることにより仲良くなることができました。仲良くなり始めた頃、班に分かれて座り、いよいよ開会式が始まりました。田中委員長のお話から始まり、ロータリーの方々の紹介、新入生歓迎のあいさつを終え、開会式が終了しました。

その後は班に分かれてバーベキューです。自己紹介をしあい、作業を分担して作り始めました。たくさんのお肉や野菜が焼かれ、おいしい匂いがしてきました。食べる頃には同じ班の他校の生徒とも打ち解けることができ、おいしくいただくことができました。気づけば、他の生徒とも話すことができ、あっという間に時間が過ぎました。片付けの時間になり、仲良くなった班の生徒達と協力しあってすばやくきれいに片づけることができました。

そして、いよいよ閉会式です。田中委員長のご挨拶を頂き、無事楽しい新入生歓迎会を終えることができました。このような機会を与えてくださったロータリーの方々、顧問の先生方、有難うございました。



新入生歓迎会

大阪桐蔭高等学校 東原 句実

6月4日に新入生歓迎会が行われました。場所は大阪府立羽衣青少年センターでした。歓迎会には各地域のロータリークラブの方々をはじめ、7校の学校からの参加がありました。

初めは、ロータリークラブの方々の紹介と挨拶でした。新入生の私達にとって、これからの活動にやる気がわいてくるような、とても良いお話でした。そして、先生方の紹介、新入生の紹介と続きました。初対面の人ばかりで少し不安になりも、一通り紹介を終えたところで、バーベキュー大会に移りました。調理の過程で、今まで知らなかった人や話した事がなかった人と仲良くなる事ができました。大阪桐蔭中、高等学校の生徒だけでなく、他の学校の生徒や、ロータリアンの方々にも気軽に話しかけられるようになり、これがこの活動の目的のひとつなのだと感じることができました。食事中や後片付けの時も、笑いが絶えず、みんな来た時とは全く違った顔で話をしました。

最後に、鈴江先輩の海外活動の話を行いました。国連ヤング大使に選ばれた先輩を持つことができるととても誇りに思いました。

今回の新入生歓迎会を通して、他の学校の人と仲良くなることができただけでなく、インターアクト部の一員としての自覚も持つ事ができたと思います。しっかりと心構えを持って過ごしていきたいと思います。



2006年度 国際ロータリーインターアクトクラブ

海外研修
タイ王国(バンコク)5日間

2006年 8月3日(木)～8月7日(月)

月日	地名	現地時間	日 程
8月3日(木) (1日目)	関西空港	09:00	関西国際空港集合 空港内の特別室にて結団式
		11:45	空路、バンコクへ
	バンコク	15:35	入国手続後、専用車にてバンコク市内へ
8月4日(金) (2日目)	バンコク	午後	ロータリークラブ・インターアクト交流会
8月5日(土) (3日目)	バンコク	午前	バンコク市内観光 (王宮、エメラルド寺院等)
		午後	ワットアルン暁の寺院等、市内視察
8月6日(日) (4日目)	アユタヤ	午前	アユタヤ遺跡観光
		午後	ショッピング
	バンコク		バンコク市内へ
		23:59	空路、帰国の途へ
8月7日(月) (5日目)	関西空港	07:30	通関手続後、解散

タイ国研修旅行を振り返って

2660地区IA委員長 田中 啓之

《ASSUMPTION高校で交流開始》

8/3 早朝より皆元気に出発しました。お見送り下さいました各位に感謝申し上げます。現地タイ空港にはIA達が20名迎えてくれました。ホテル到着後約2時間余り生徒全員が踊りと唄の特訓を行いました。これが後の交流に大変役に立ちます。

8/4 ASSUMPTION高校を訪問して、約30名のIA達との交流が始まりました。皆大変人懐こい笑顔で、両手をあわせて「サワッディクラブ」と言われると、ついこちらも両手を併せて挨拶します。

校長先生やIAからIACの活動状況など報告のあと、学生によるタイ古典舞踊は新鮮で良かったですね。我々達も全員法被姿で「ソーラン踊り」を披露したら大喝采を受けました。あとで校内の教室を案内してもらう頃には、皆が自然に話し合っていました。

《3350地区IAとRC合計150名と活発に交流》

8/4 夕食会は両地区IACの交流会ということで、3350地区IA123名とガバーはじめ各RC会長など150名が、我々35名を迎えてくれました。想定以上の人数に戸惑うかと思いましたが、生徒たちが動じることなく対応できたのは立派でした。

ここでもタイの学生が美しい衣装を纏って古典舞踊を披露してくれました。とても新鮮で美しかったです。我々IACのメンバーも再び全員法被姿で「ソーラン踊り」を元気よく踊り、また、「世界にひとつだけの花」を合唱すると、カメラの放列と全員の手拍子を受け大きな交流を果たしました。

何よりも良かったのは、そのあと生徒全員が現地IA達とどんどん交流したことです。いつ果てるとも分からない交流は、言葉のカベを感じさせない、すばらしいものでした。

交流会の食事費用は、参加IAたち200パーツ(600円)、RC250パーツ(750円)、飲物は水、バイキング方式ですが、こんなに皆が交流できたのは、大変良かったと思います。

《IA達の案内で王宮やエメラルド寺院を回る》

8/5 現地IA20名の案内で王宮やエメラルド寺院を、5つの小グループに分かれて一緒に行動しました。建物や壁画の説明を聞きながら、少しでも長く交流しながら見学できて良かったです。

8/6 美しい建物や、仏教、アユタヤ遺跡の崩れたレンガ造りの塔を見ながら、タイ王国はこれからどのような道を歩むかと思いながら、明るく、親しみ易い国タイを後にしました。

夜遅く空港に見送りに来てくれた7~8名のIAたち有難う。3350地区IAC、RCの皆さん、たくさんの親切を有難うございました。感謝申し上げます。

1日目

金光八尾高等学校 野島 由紀

タイへの海外研修出発の日、私はこれから始まる3泊5日の研修に期待を膨らませて飛行機に搭乗しました。

そして、タイに到着。空港を出ると、もうそこは異国の地でした。日本とは違う派手なタクシーや、その街並みを見て、本当にタイに来たんだと実感させられました。ホテルに着いて間もなく夕食でした。初めてタイ料理を食べました。この日の料理はタイ風シャブシャブでした。タレはすこしスパイスが効いていて辛かったけれど、とてもおいしくいただけました。

その後、現地の人との交流で披露するための歌とソーラン節の練習をしました。歌は『世界にひとつだけの花』で、みんなが知っている曲だったので少しの練習で済みましたが、問題はソーラン節です。私もですが、ソーラン節を知らない生徒が多かったのです。しかし、ソーラン節を知っていた相愛の先輩方の見事な指導で、最初は全然できなかったのが、少しずつまとまっていきました。私は一生懸命に教えてくれている先輩方を見て、自分も一生懸命やろうと思い、なんとか踊れるようになりました。そうしているうちに時間は本当にあっという間に過ぎていきました。

この少ない練習時間の中に、参加した5校のインターアクターの距離が一気に縮まったように思いました。1つのことに一緒に取り組むことで、また新しい友達もできてよかったです。

「明日の交流会で、タイの人に日本の文化（ソーラン節）を少しでも知ってもらえるといいな。」と思いながら就寝時間を迎えました。



2日目

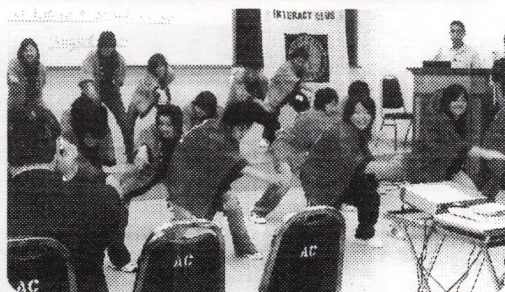
相愛高等学校 小谷真央、幡田真衣、合田宏江、藤村聡美

滞在2日目は皆でIACのTシャツを着て、舟に乗りワット・アルンへ行きました。集合写真を撮り、建物を見学した後、再度舟に乗り次の目的地に行く途中、水上で食べ物や小物を売っているおばさんに会いました。日本ではない光景なので新鮮でした。そこでドリアンという今まで見たことのない果物を食べました。想像した味よりおいしくてびっくりしました。そしておみやげ屋さんで買い物をしたり、なまずにえさをあげたりしました。

乗り場に戻り、お昼はタイカレーとトム・ヤム・クンを食べに行きました。とても辛く全てを食べることができませんでした。お店の人とも交流したりしてとても楽しかったです。

そしてタイのアサンプションスクールという学校に行き、そこの学校に通っているインターアクターと交流をしました。初めてそこの学校のビデオを見て、両国の国歌を歌い合い、その後歓迎のダンスをしてもらったので昨夜、皆で一生懸命練習したソーラン節を踊りました。突然踊ることになり緊張しましたが、皆の頑張りにはタイの人達に伝わったと思います。その後タイのお菓子を皆で食べ、教室を案内してもらい最後に記念撮影をして学校をでました。

ホテルに戻り、少し休憩した後、交流会をする会場に向かいました。着くとたくさんの人達に迎えられ、食堂の前で英語での会話に苦労しながらもそこにいたインターアクターと交流することができました。仲良くなり始めた頃に食事が開始され、自分達から積極的に話しかけていくことができました。食事も済み、この時のために練習したソーラン節を披露した後、世界でひとつだけの花を皆で肩を組み合唱しました。無事終ると大きな拍手をもらえてよかったです。最後に日本のおみやげを渡し、交流会が終了しました。とても楽しい二日目を送ることができました。



3 日 目

大阪桐蔭高等学校 田嶋 允貴

滞在三日目はD3350ロータリアン、インターアクターの人達とエメラルド寺院、王宮を見学しました。そこでは班行動で15人ぐらいの人数で見て回りました。見学をしている間、ずっとタイのインターアクターの方々が色々なことを説明してくれました。また、途中私達にジュースを買ってくれたり、日本語のパンフレットを購入してくれるなど大変お世話になりました。英語が苦手な私にとって英語でしか会話ができないのが難点でしたが、何とかコミュニケーションを取ることができたと思います。

昼食時になり、本当はそこでお別れのはずだったのですが、ロータリーの先生の配慮によって、現地のロータリアン、インターアクターの方々と一緒にホテルで食事をとることになりました。2日目の夜ほどではありませんでしたがとてもにぎやかで、まだ話したことのない方々ともたくさん話せてとても楽しかったです。一生忘れることのない時間を過ごすことができました。

昼食の後は、ホテルで最後のお別れをし、バスで市内へ買い物に行きました。50分程自由時間があったのですが、見る物見る物が珍しく、長いと思っていた時間はあっという間に過ぎてしまいました。

夕食はタイの古典舞踊のディナーショーでした。物語に属した踊りはとても綺麗でした。最後にステージの上で一緒に踊らせていただきましたが、どうも手の動きが難しく、そこがポイントのようです。

このような普通の観光旅行では経験することができないような機会を与えていただきありがとうございます。この素晴らしい経験を無駄にしないよう努力していきたいと思えます。最後になりましたがお世話になったロータリーの先生方、顧問の先生方、本当にありがとうございました。



4 日 目

四天王寺高等学校 谷村 桃、堀内 春那

広い土地と、平穏で素朴な生活の中に生きるアユタヤの遺跡。赤茶色いレンガで組み立てられた建物が、崩れながらも何とか形を留めていました。

木陰の涼しいワット・プラ・マハタートでは、『こんな静かなところが本当に古代アユタヤで王朝の都なのか?』と思い、遺跡の階段を上ったときも、『昔のひとがこの階段を上っていたなんて想像もできないな』と思いました。

しかしちゃんと見てみると、欠けて崩れた遺跡や、首の取られた仏像が並んであり、ここで栄華、侵略、陥落と色んなことが起こったのだと分かりました。

一見そんな風ではないのに、よく見ると見えることだってある。そう思うと、自分が立っているところさえ、昔は誰が立っていたのだろうかと考えてしまう。

遺跡と触れたことで、昔の人と触れた気がしました。

午後になって象に乗りました。

すごくたくさんさんの象がいてかわいかったです。初めは不安定だったけれども、途中から慣れてくるととても楽しかったです。

今まで体験したことがないようなこともできてよかったです。

そのあと、遺跡に行きました。

とても素晴らしい遺跡でした。

塔に上がりました。景色がとても綺麗でした。これを作った人はすごいなーと思いました。

夕飯を食べて空港へ向かいました。もう旅が終わるのだと思うと寂しく感じました。

空港には夜遅くにも関わらずタイの人が見送りにきてくれていました。

とても楽しい旅でした。

今までにはなかった経験ができて来てよかったなあと思いました。

お世話になったロータリーの皆様ありがとうございました。



全体を通して

清風学園高等学校 松地 大輝

久しぶりに早起きをして、身支度を整え、大きな荷物を転がし、早朝から大騒ぎ。いよいよ今日から待ちに待った海外研修です。思えば用意に何日もかかり、ずっと前から心馳せた海外研修、やっと海外に行く実感がわきました。

タイでまず初めに驚いた事は、タイの学生がとても積極的に僕らに話しかけてくることです。タイも英語は母国語ではないのに、英語を怖がらずに使っているところは圧倒されました。日本人ではなかなか出来ないことだと思いました。どうしても僕らは自分の英語に自信がもてず、人前で話すのに抵抗があります。しかし、タイの学生は学んだ英語を必死に伝えようと話してきます。これはタイ人の素晴らしいところであり、僕らも少し見習わなければいけないと思いました。英語はややこしい文法よりも、相手に言いたいことを伝えることの方が大切であると思いました。

次にタイで驚いた事は町の様子です。路上にたくさんの屋台があり、野良犬もたくさんいました。それなのに日本でも珍しい超高層ビルもありました。あとタイには川が多く、それを生活に利用している人もたくさんいました。バンコクで印象に残ったことは、とにかく明るく活気があることです。日本では見る事ができないものをたくさん見ました。

タイにはたくさんの日本語の看板があり、日本の製品があります。日本の会社もたくさんありました。タイの学生は日本の有名人の事もよく知っていました。しかし僕らは日本でタイの看板や製品を見かけることは少ないです。そう考えるとやはり、国際社会において日本の方がタイより進んでいるのは確かです。しかし、タイの学生と交流して人間の中身は日本人の方が劣っているぐらいに感じました。日本人はもっと人間として大切な事を学ばなくてはと、この海外研修で思いました。



タイ王国海外研修報告

金光八尾高等学校インターアクトクラブ顧問 和田 名保子

8月3日(木)早朝、関西国際空港に幹事校の清風学園を始め、大阪桐蔭、四天王寺、相愛、金光八尾の5校の生徒が集まった。これから始まる3泊5日のバンコクでの海外研修に期待を膨らませて目を輝かせるもの、緊張を隠しきれないもの、それぞれの思いを胸に私たちは飛行機に乗り込んだ。話し合いの段階では多少の不安はあったものの、たくさんの方々のご支援により2660地区のインターアクト委員長田中先生を団長として、5校のインターアクター24名、顧問6名、ロータリアン3名の計43名全員が元気に出発できることに感謝の気持ちでいっぱいであった。

さて飛行機は日本を飛び立ち、わずか5時間ほどでタイに降り立った。空港では現地タイのインターアクターがお出迎えをしてくれた。彼らは初対面の私たちにも明るく人懐っこい笑顔で近づき、積極的に話しかけてくれた。その積極的な行動に最初は驚きを隠せなかった。それはまだまだこれから続く彼らの熱烈な歓迎の一部にしかすぎなかった。その空港での歓迎を受けてか、初日の夜は2日目に控えた交流会での演技練習にみんな汗を流した。相愛の生徒を中心に、わずか数時間の練習にも関わらず彼らは見事なソーラン節を完成させた。揃えたハッピーを着て一生懸命に踊る彼らは生き生きとして輝いていた。

そして迎えた2日目、私たちは午後から交流会が開催されるAssumption Collegeを訪問した。高校にも関わらず「College」と名が付けられているのは、大学のように専門的で幅広い学問に触れることができ、また豊かな経験ができる高校を目指しているという説明が学校紹介のビデオの中でされていたと記憶している。確かに、Assumption Collegeの生徒の対応は立派で、自ら行動する力を持っていると始終感じさせられるものであった。彼らの司会で始まった交流会では、タイの民族舞踊が披露され、こちらからはソーラン節を披露した。その姿はみな一様に胸を張り生き生きとしていて、立派に文化交流を成し遂げていた。その後も交流は続き、ぎこちないながらもお互いに英語や身振り手振りを巧みに使い合っってコミュニケーションを図り、楽しい時間を共有しているようであった。彼らは言葉も文化も越えて、全身で新しいものと向かい合い受け入れていた。その目は普段見ることがないほどに輝いていた。

3日目。私たちはエメラルド寺院を訪れた。寺院の美しさ、壮大さは言うまでもなく、



みんなその鮮やかさに魅了され心を奪われていたのだが、このあたりで私は改めてタイ国王ラーマ9世の偉大さに気付き始めていた。黄色い服、黄色い旗、訪問する至る所で私たちはその暖かい「黄色」に囲まれていた。その色は国王の即位60周年を記念し祝福する色であった。余談ではあるが、色で思い出すことと言えばもう一つある。あれは「ピンク」というよりむしろ

「ショッキングピンク」だったかもしれないタクシーであった。私たちはまずその色に強烈な印象を受け、ここは日本ではないと実感した。そして中に入り込んでいた多すぎる人数にもまた驚かされた。タイでは色鮮やかなものをたくさん目にしたが、そういった色にも負けないほどに明るい人々に出会う事が出来た。そして今、色鮮やかな思い出が生徒たちの心の中には残っていることだろうと思う。

最終日で印象深いのは、アユタヤ遺跡の象の背中に乗って数分間のお散歩だ。これで最後かと揺られながら思いをはせた。バスの中で、ガイドの方が「タイでの一番の思い出は何ですか？」と質問された。何人もの生徒が「人との出会い！」と迷いなく答えていた。その言葉を聞いて、今回の海外研修は生徒たちには本当に意義深いものとなり、タイの方々との素晴らしい国際交流を経て、彼らは国際理解へのまずは第一歩を踏み出したのだと確信した。今回のこの経験を、今後彼らは何らかの形で活かしてくれることを期待したい。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださり、最初から最後までご支援ご尽力を頂いたインターアクト委員長長田中先生を始めとするロータリークラブの先生方、各顧問の先生方、旅行会社の方々へ深く感謝申し上げます。どうもありがとうございました。



2006～2007年度
RI第2660地区
インターアクト年次大会



日 時 平成18年11月23日（祝）
場 所 浪速中学高等学校 新館
ホストクラブ 浪速中学高等学校インターアクトクラブ
大阪住吉ロータリークラブ

2006-2007年度

国際ロータリー第2660地区インターアクト年次大会 参加者名簿

R I 2660地区		
	第2660地区ガバナー	井 上 瑛 夫
大阪RC	地区IA委員長	上 野 昌 也
大阪RC	RCIA副委員長	小 浦 芳 生
大阪RC	RCIA副委員長	松 岡 一 郎
大阪南RC	地区IA委員長	廣 内 謙 明
大阪南RC	地区幹事	谷
大阪阪南RC		近 藤 大 三 郎
大阪阪南RC		野 間 吾 郎
大阪阪南RC		小 山 隆 三
大阪阪南RC	地区IA委員長	谷 野 清 孝
大阪阪南RC	RCIA副委員長	汲 田 英 明
大阪阪南RC		津 崎 正 幸
大阪阪南RC		和 田 健 治
大阪阪南RC		米 田 誠 治
大阪住之江RC		勝 根 慶 治
八尾RC	RCIA副委員長	正 野 憲 司
八尾RC	地区IA委員長	吉 本 憲 司
八尾RC		相 原 千 城
大東RC		角 井 吉 彦
大東RC		山 中 政 治
大東RC	地区IA委員長	田 中 啓 之
大阪住吉RC		新 井 文 三
大阪住吉RC	地区青少年活動委員長	泉 博 朗
大阪住吉RC		板 垣 美 一
大阪住吉RC		大 塚 三 十 四
大阪住吉RC		川 上 富 清
大阪住吉RC		富 家 丈 雄
大阪住吉RC		西 尾 良 一
大阪住吉RC		原 野 圭 司
大阪住吉RC		渡 部 富 士 雄
地区RAC	RA地区代表	森 麻 矢 子
地区RAC	地区RA幹事	小 室 周 平
地区RAC	地区副幹事	近 藤 美 都 保
地区RAC	地区副幹事	池 田 龍 介
地区RAC	南ゾーン代理	近 藤 昭 一

清風学園（顧問2名・中4名・高14名）		
清風学園IAC	顧問	中村 明夫
清風学園IAC	顧問	門田三生夫
清風学園IAC	高2	中島宗一郎
清風学園IAC	高2	廣瀬 浩明
清風学園IAC	高2	原口 貴臣
清風学園IAC	高2	佐々木良輔
清風学園IAC	高2	中西 祐貴
清風学園IAC	高2	三好新太郎
清風学園IAC	高2	吉村浩太郎
清風学園IAC	高2	平山 大祐
清風学園IAC	高2	百村 誠彩
清風学園IAC	高2	松地 大輝
清風学園IAC	高2	富田 雄介
清風学園IAC	高1	横井 克俊
清風学園IAC	中2	稲田 晃久
清風学園IAC	中2	山本 陽介
清風学園IAC	中1	安達 佑
清風学園IAC	中1	高橋 直熙
大阪桐蔭中学高校（顧問3名・中7名・高14名）		
大阪桐蔭中学高校IAC	顧問	仲谷 浩一
大阪桐蔭中学高校IAC	顧問	亀井 貴洋
大阪桐蔭中学高校IAC	顧問	富松 恵
大阪桐蔭中学高校IAC	高3	鈴江 祐希
大阪桐蔭中学高校IAC	高2	鈴木 江梨
大阪桐蔭中学高校IAC	高2	山岡 真子
大阪桐蔭中学高校IAC	高2	田嶋 允貴
大阪桐蔭中学高校IAC	高1	岩本 行弘
大阪桐蔭中学高校IAC	高1	浅沼 佑
大阪桐蔭中学高校IAC	高1	木村 美咲
大阪桐蔭中学高校IAC	高1	杉原 聡美
大阪桐蔭中学高校IAC	高1	美濃 真澄
大阪桐蔭中学高校IAC	高1	今村 元気
大阪桐蔭中学高校IAC	高1	中西 ゆう
大阪桐蔭中学高校IAC	高1	東原 句実
大阪桐蔭中学高校IAC	高1	野村保奈美
大阪桐蔭中学高校IAC	高1	森 美浪
大阪桐蔭中学高校IAC	中3	上住 卓
大阪桐蔭中学高校IAC	中3	三牧 優作
大阪桐蔭中学高校IAC	中3	西田 真隆
大阪桐蔭中学高校IAC	中3	古川 達也
大阪桐蔭中学高校IAC	中3	竹中 久悦
大阪桐蔭中学高校IAC	中2	遠藤有梨沙
大阪桐蔭中学高校IAC	中2	瀧上 実紗

相愛中学高校（顧問2名・高7名）		
相愛中学高校IAC	顧問	川西 清史
相愛中学高校IAC	顧問	井上 泰朗
相愛中学高校IAC	高3	合田 宏江
相愛中学高校IAC	高3	幡田 真衣
相愛中学高校IAC	高3	森田はる美
相愛中学高校IAC	高3	藤村 聡美
相愛中学高校IAC	高3	小谷 真央
相愛中学高校IAC	高3	芳村 志織
相愛中学高校IAC	高3	平原 寛美
四天王寺中学高校（顧問1名・中4名・高6名）		
四天王寺中学高校IAC	顧問	岡 宏治
四天王寺中学高校IAC	高2	安賀 真生
四天王寺中学高校IAC	高1	淵野 友未
四天王寺中学高校IAC	高1	森川 莉江
四天王寺中学高校IAC	高1	田中 真弓
四天王寺中学高校IAC	高1	谷村 桃
四天王寺中学高校IAC	高1	坂本 慧
四天王寺中学高校IAC	中2	洪野 友里
四天王寺中学高校IAC	中2	栗原 律子
四天王寺中学高校IAC	中1	福井 晴那
四天王寺中学高校IAC	中1	小西みのり
金光八尾中学高校（顧問3名・高6名）		
金光八尾中学高校IAC	顧問	金崎 桂梧
金光八尾中学高校IAC	顧問	藤田 洋輔
金光八尾中学高校IAC	顧問	和田名保子
金光八尾中学高校IAC	高3	須斉 正也
金光八尾中学高校IAC	高3	後藤 大輔
金光八尾中学高校IAC	高2	佐藤 亜美
金光八尾中学高校IAC	高1	藤井 智也
金光八尾中学高校IAC	高1	野島 由紀
金光八尾中学高校IAC	高1	大野あずさ
浪速中学高校（顧問2名・高6名）		
浪速中学高校IAC	校長	本間 靖彦
浪速中学高校IAC	顧問	大塚真紀子
浪速中学高校IAC	顧問	木村 智子
浪速中学高校IAC	高3	泉 俊行
浪速中学高校IAC	高3	青木 辰之
浪速中学高校IAC	高3	金川 尊光
浪速中学高校IAC	高3	竹内 義宏
浪速中学高校IAC	高2	山川理佳子
浪速中学高校IAC	高2	尾上 律男

2006～2007年度国際ロータリー第2660地区
インターアクト年次大会プログラム

9:30	受付	司会：浪速中学高等学校 I A C	泉俊行
10:00	〔開会式〕 点鐘・開会宣言	インターアクトクラブ地区代表	泉俊行
	君が代・I A Cの歌斉唱	ソングリーダー	尾上律夫
	ターゲット発表	浪速中学・高等学校 I A C	金川尊充
	開会の言葉	地区インターアクト委員長	田中啓之
	歓迎の言葉	大阪住吉ロータリークラブ会長	渡部富士雄
	来賓紹介	大阪住吉ロータリークラブインターアクト委員長代理	
		青少年活動委員会委員長	泉 博朗
	参加クラブ紹介	浪速中学高等学校 I A C顧問	大塚真紀子
	来賓祝辞 第2660地区青少年奉仕担当地区顧問・パストガバナー		井上暎夫
	ロータリー地区代表	森麻矢子	
	幹事校校長挨拶	浪速中学・高校校長	本間靖彦
	ヤング国連大使報告	大阪桐蔭中学高等学校 I A C	鈴江祐希
		『インターアクターウィーンへ』	
	各校活動報告	海外研修ビデオ上映	
11:10	講演	ふうせんバレーボール普及会代表	石井勝治
		『風船を打ち合うスポーツ～ふうせんバレーボール～』	
11:40	共同作業の説明		
12:00	昼食		
12:40	更衣（体操服）		
13:00	共同作業	（風船バレー・車いす体験・アイマスク体験）	
	合唱「世界に一つだけの花」		
15:00	〔閉会式〕 講評	第2660地区幹事	谷 明
	ロータリーアクトPR	第2660地区ロータリーアクト幹事	小室周平
	次年度ホストクラブへの引継ぎ	四天王寺高等学校中学校 I A C会長	
	閉会宣言・点鐘	インターアクトクラブ地区代表	泉俊行
15:30	解散		

ターゲット Lead The Way～率先しよう～

「見慣れた景色が違って見えた」初めて車椅子に乗ったときの素直な感想だ。普段気にも留めていなかった段差、何気なく押していた自販機の位置、噴水などがいつもと違って見えた。

「相手の目線で物を見て、考える」この姿勢が人と人との理解を深め、互いを生かしながらつながるのではないだろうか。

今回の年次大会を通じて『Lead The Way～率先しよう～』という気持ちを少しでも今後の社会生活に活かしていくことができたらと思う。

インターアクトクラブの目的

- 1、建設的に指導力を育成し、自己の完成を計ること。
- 2、他人に対する思いやりと、他人の力になる心構えを奨励し、これを実践すること。
- 3、家庭と家族の重要性に対する認識を涵養すること。
- 4、個人の価値を認める考え方に立脚して他人の権利を尊重する観念を養うこと。
- 5、個人的成功のためにも、地域社会の改善のためにも、さらに団体としての業績を上げるためにも、各人が責任を負うことが基本である事を強調すること。
- 6、すべての有用な職業は社会に奉仕する機会であるとして、その品位と価値を認識すること。
- 7、地域社会、国家及び世界の問題についての知識と理解を深める機会を提供すること。
- 8、国際理解と全人類にたいする善意を増進するために、個人として、また、団体として進むべき道を切り開くこと。

06～07年度2660地区 I A C 年次大会開会のことば

地区 I A C 委員会委員長 田中 啓之

皆さんこんにちは。地区 I A 委員長の田中です。

日頃より皆様には I A C の活動に何かとご支援いただき誠に有難うございます。

本日は、国際ロータリー第 2 6 6 0 地区の I A C 年次大会を開催いたしましたところ、皆様大変お忙しい中地区青少年奉仕担当ならびに新世代合同委員長会議議長の井上様はじめ R C の方々、浪速中学、高等学校校長の本間先生始め顧問の先生方、風船バレーボール普及会代表石井様、特別参加の住吉区社会福祉協議会ロータリーアクトの皆様。多数のご参加本当に有難うございました。

ご案内の通り当地区の I A C は 1 4 才から 1 8 歳の中学・高校生を対象に、現在 7 クラブ、7 校、7 R C で構成しており、生徒数 1 0 0 名、顧問数 2 0 名、R C 担当者数 3 6 名、合計 1 5 6 名が活動しております。

活動目的は、主に地域社会への奉仕と国際理解を深めて、豊かな人間性とリーダーシップを養うことを目指しております。

この年次大会は、その活動を報告する場であり、またみんなで共同作業に参加して交流を深めると共に人間性とリーダーシップを養う場でもあります。

どうぞこれからの発表内容をお聞きいただき、見ていただき、また午後からの共同作業として、障害者の方々と一緒になって行う風船バレーや、車椅子の体験、アイマスク体験を通してお互いの理解と交流を深めていただければ幸いです。

尚申し遅れましたが、本大会を準備運営いただきます浪速中学校・高等学校および大阪住吉 R C の皆様、ご担当の大戸様が足を骨折され出席できない中、大変お世話になります。が宜しく願い申し上げます。

それでは改めまして本日の I A C 年次大会を皆様の御協力のもと、笑顔で一緒にしたいと存じます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



年次大会を終えて

浪速高等学校 3年 青木 辰之

年次大会前日は緊張して、開会式で皆さんの前でうまく活動報告を言えるかどうか不安でした。でも、失敗してもという気持ちで当日を迎えて、活動報告は僕なりにうまく言っただと思いました。

その後の共同作業で僕たちは、車椅子体験、アイマスク体験、風船バレーボールをしました。その中で最も印象に残っているのは車椅子体験です。毎日、講習が夜遅くまであり、忙しくてなかなか車椅子の練習をする時間がとれなかったのが、当日の車椅子の説明はうまくできませんでした。でも、車椅子に乗る事はとてもいい経験になったと思っています。車椅子に乗っている人を押したり、また自分が車椅子に乗ったりすることによって、普段車椅子にのっているお年寄りや障害者の方の苦勞が少し分かった気がします。

アイマスク体験は少し怖かったです。暗闇の中を誰かに頼りながら歩くというのはとても難しいし、付き添いの人を信頼していないと絶対にできないと思いました。

年次大会に参加するのは今回で2回目ですが、参加するだけの前回と違い、今回は幹事校だったのでかなり前から準備をして大変でした。その分終わったときは前回よりも充実感を感じました。

この年次大会を終えて、僕は大切な経験をできたと思っています。僕は3年生で浪速高校のインターアクトクラブはこの大会で卒業ですが、また機会があればこのような活動に参加してみたいと思います。



インターアクト年次大会を終えて

浪速高等学校 2年 尾上 律夫

今回の年次大会は担当校の相愛高校と比べて準備への着手が7月と遅く、初めは成功するのかが気がかりでしたが、ご来賓の石井さんや大阪住吉福祉協議会の皆さんの多数の方々のご協力のおかげでなんとか成功と呼べるものになりました。そして、今回の年次大会では僕はホスト役のインターアクターとして参加しました。それが「世界に一つだけの花」を合唱するとき、参加インターアクターの全員の前立って指揮をとったのですが、その指揮が大きすぎてしまいました。それですこし落ち込んでいたのですが、ご来賓の石井さんの話を聞いて、今年の春休みに脳出血を起こして倒れてしまった自分が、半盲という障害だけで、当然のように立つことができ、文字が書けることをうれしく思いました。今回の年次大会で行ったことは、どれもこれも小学校中学校で行った事であるかもしれません。当日そのような言葉も聞こえなし、僕自身も体験しました。でも、それはただ単なる経験の話で、例えば段差は車椅子にとってどれだけ厄介なのか、という意識は薄らいでしまっていました。そして今回の年次大会で、薄らいだ意識を少しは取り戻せたと思います。そして、今までに今回の年次大会以前に車椅子補助など体験した方は、きっと僕と同じようにそれを取り戻せ、初めての方は既に体験したことのある人達より強く印象に残ったと思います。年次大会を主催できたこと、何より年次大会に参加できてよかったと思います。



年次大会の感想

浪速中学高等学校インターアクトクラブ顧問 大塚 真紀子

インターアクトクラブの顧問になって初めて幹事校として年次大会を迎える事になった。夏期講習後、住吉社会福祉協議会に相談に伺い、おしかりをうけたところからスタートとなった。「ボランティアは与えられて行うものではありません。インターアクトクラブ活動を通じて生徒の中から自発的に生れたものを具体的に案にしてから再度来て下さい。」とのことであった。

長い話し合いの末、出てきたものがバリアフリー体験だった。車椅子体験、アイマスク体験ついには既に体験済みの生徒が多かったので、障害者スポーツ体験を取り入れることになった。長居障害者スポーツセンターに行き様々な障害者スポーツを見学したが、中でも目をひいたのが、鈴の入った風船を打ち合うバレーであった。風船バレーは北九州で生まれたスポーツで、「重度の障害者の人も一緒にできるスポーツがあったらいいな・・・」と一人の障害者のつぶやきから考案されたスポーツである。最初は気楽な気持ちで参加したものの、うまくサーブが入らなかったとき本気で悔しがり審判になだめられる知的障害者の方や、声だしを徹底させようとする審判の真剣な姿からも、単に楽しいだけでなく競技性もあるのだと思った。また、風船の中に鈴が入っているので視覚障害の方も参加できるし、精神障害の方も鈴の音に興味関心を示して多数参加していた。親子で、あるいは兄弟で参加することによって、障害を持つ家族との関係までよくなったというエピソードも聞いた。

年次大会も、ロータリーの先生方、顧問の先生方と生徒、障害者の方々やボランティアで来てくださった方々等、老若男女の障害のある人ない人が同じコートの中で対等な立場の選手として参加した。一人1回は必ず風船に触れるというルールにしたがって、パスを回しあう中で、お互いの理解を少しでも深めることができたのではないかと思う。

今回の大会の準備の中で、車椅子の方々のお手洗いを設置したり、通られるルートを何度も確認してわずかな段差を点検してまわったり、設備面で気を遣う場面は多くあった。ただこのようなハード面での気遣いよりも大切なのはやはりソフト＝人に気を遣えるところであると思った。ハード面は社会全体で法準備が図られ、以前より整ってきているのはいうまでもない。しかし、ソフト面ではやはり1人1人が自ら意識して向上させていく以外充実させることはできないからである。相手を思いやるところに障害の有無や高齢者だとかの区別はない。障害をもった方々を区別するのではなく、風船バレーでたとえるならば相手が打ちやすいようなボールをさりげなくまわす気遣いが大切であると心から思った。今後のインターアクトクラブの活動を通じて、自分のところの中にある他者を思いやる心の芽を自分で発見し、どんどん育てていって欲しいと切に願っている。

最後に改めて援助いただいた田中先生をはじめとするロータリーの先生方、各校顧問の先生方、社会福祉協議会の方々に心からお礼申し上げます。どうもありがとうございました。

ふうせんバレーボール

ふうせんバレーボールとは、障害のある人も、障害のない人も、子ども、高齢者も一緒に楽しむ事ができる新しい6人制のゴム風船を使って行うバレーボールです。

障害のある選手（ハンディプレイヤー）3名と障害のない選手（アドバンテージプレイヤー）3名の合計6名でプレーします。

ボールがコートに入ってから、チーム6名全員にボールを回して、全員がボールの触れてから相手コートにボールを返します。

[全員参加がモットーのスポーツです。]

ふうせんバレーボール大会のルール

コート バドミントンコート (6.1m×13.4 m)、ネットの高さ (1.55m) アタックライン (2.5mとします)

ボール 直径40 cmに膨らませたふうせんに鈴2個を入れ、結び、口にテープを貼ったものを使用します。

チーム 障害のあるプレイヤー（ハンディプレイヤーHP）3～4名
障害のないプレイヤー（アドバンテージプレイヤーAP）2～3名で構成された6名です。
ハンディレベル（ハンディの合計は18点以内）

- レベル1 自力でボールを追うことが困難で、且つ、当てるような打ち方（ボールコントロール不能）しかできない程度の人
- レベル2 ボールを追うことと打つことに部分介助が必要な人
- レベル3 ある程度自力移動が可能で、打つことも可能な人
- レベル4 障害があってもプレーにほとんど支障のない人は「レベル4」と判定し、アドバンテージプレイヤーとして参加します。

サーブ サーブは2回制（1回目失敗後の選手交代は不可）
1番は、HP・AP・HP・APの順で交互に。
APはサービスライン後方から、HPは任意の場所から、HPで打ち込みできるプレイヤーはサービスライン後方からサーブを行います。
HPは、任意の選手からトスのアシストと、サーブ後に1打のアシストを受ける事ができる。

反則

ナットオール	全員ボールを打つ前にコートに返球した場合
オーバータイム	10回以内に相手コートに返球できなかった場合 同一プレイヤーが3回ボールを打った時
ドリブル	同一プレイヤーが連続2回ボールを打った時
ホールディング	ボールを持ったり、運ぶようなパスをした時
ジャンプアタック	ジャンプしてサーブ、アタックをした場合

勝敗 15分ないし20分間の時間制または15点先取り、ラリーポイント制。

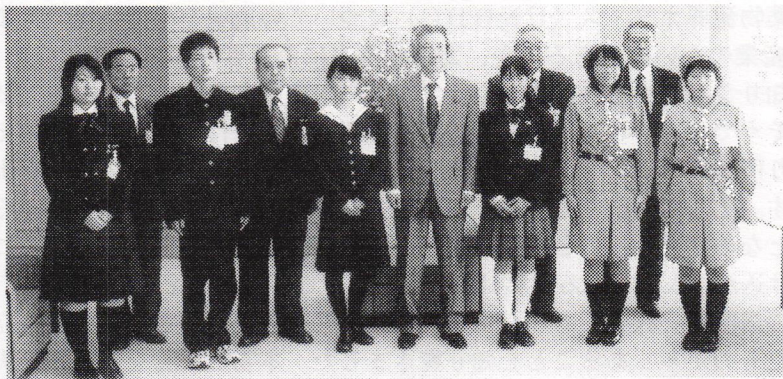
インターアクター、ウィーンへ

— 「ダメ。ゼッタイ。」民間国連ヤング大使現地レポート—

「ダメ。ゼッタイ。」をテーマにした薬物乱用防止の国連支援募金活動は、1993年にスタート。国内では（財）麻薬・覚せい剤乱用防止センターの主導で、薬物乱用のない社会環境作りのために、国連を通して、発展途上国の薬物防止活動を援助しています。「民間国連ヤング大使」とは、募金街頭キャンペーンにボランティアとして積極的に参加していた全国の中高校生から6人を選抜して派遣し、募金贈呈および地元学生との交流などを行う制度です。

このたび、2005年度第13代「民間国連ヤング大使」の1人として、特別枠で、第2660地区・大東ロータリークラブ提唱の、大阪桐蔭中等学校インターアクトクラブ（IAC）から鈴江祐希さん（同高校2年）が選ばれました。3月17日に薬物乱用対策推進本部長である小泉純一郎総理大臣を表敬訪問。次いで、1週間の予定でウィーンに赴き、薬物乱用の恐ろしさを学ぶとともに、『ダメ。ゼッタイ。』国連支援募金の寄付金目録を、ウィーン国連センターの国連薬物犯罪オフィス（UNODC）に贈呈しました。以下は、鈴江祐希さんによる現地訪問レポートです。

第2660地区地区社会奉仕委員長・榎上 幸夫／地区インターアクト委員長・田中 啓之



首相官邸にて（左端 鈴江祐希さん）



国連センターにて寄付金目録贈呈式

「ダメ。ゼッタイ。」民間国連ヤング大使ウィーン滞在記

大阪桐蔭高等学校2年 鈴江 祐希

高校のインターアクト部に所属している私は、募金活動や古着を回収してラオスに寄贈する等のボランティア活動を行っています。そんな我が部に、ある日突然、先生から「『ダメ。ゼッタイ。』薬物乱用防止の民間国連ヤング大使の応募がきているけれど、誰か興味はないか？」とのお話がありました。私は心理カウンセラーを目指していて、薬物に対して関心を持っていました。こんな機会は滅多にないと思い、立候補して先生に推薦していただきました。

そうして迎えた3月17日の結団式。5名の派遣メンバーと初めて話をしたとき、不安がすうっと消え去っていくのを感じました。こんな温かい人達と一緒に行くという嬉しさと期待で胸が一杯になりました。その後、首相官邸にお伺いし、小泉純一郎内閣総理大臣にお会いすることができました。小泉総理は私達一人一人と握手をされ、激励のお言葉をかけてくださいました。お忙しい中、私達のために時間をとって頂いたことがとても嬉しく、ヤング大使としてしっかりとたくさんのことを学んでこようと決意を新たにしました。

18日、ついに到着したウィーンは、絵から抜け出したような美しい街並みが広がっていて、街全体が歴史を物語っている感じがしました。国連センターは、ウィーンの街とは違って変わって近代的な建物で、国連に加盟している全ての国の国旗が掲げられているのに驚きました。在ウィーン国際機関日本政府代表部の一等書記官の安田さんに案内していただき、天野大使にお会いしました。ここで初めて英語での自己紹介をしました。その後、世界の薬物状況や国連薬物犯罪オフィス（UNODC）についての説明をしていただきました。薬物の生産しか産業のない国があるとか、薬物が本当にたくさんの国でつくられ、使用されていることを知りショックを受けました。アルコール中毒と薬物中毒になる人には共通するものがあるそうです。それは、経済的なことや親からの虐待などの問題を抱えることにより、心の拠り所が欲しくて、お酒か薬物のどちらか手に入りやすい方に手を出してしまうのだそうです。そして何よりその人達に対して必要なのは人生に目標を持てるような状況をつくることなのだという事も知りました。薬物は、苦しくて助けを求めている人の心の隙間につけ込んで入ってくる。私は胸が軋むような思いがしました。

また、薬物についての講話や実験をしていただきました。元来医薬面などで人の役に立てるために使われ始めたものが多くあることを知り驚きました。本物の薬物を使っての実験では、色々な薬物の上にそれぞれの薬物にのみ反応する専用の試薬を垂らしてその反応を見ました。一見砂糖といわれても判らないような白い粉が、試薬と化学反応を起こして、鮮やかな紫色や黄色に変わるのを見て、まざまざと薬物の力を見せつけられた様な気がしました。自分の前にあるものが毒物であることが本当に怖いと思いました。

そして私達がウィーンに来た最大の目的である寄付金目録贈呈式が行われました。このお金は、薬物の治療施設や、薬物についての教育、薬物生産が中心となっている国に対する資金になるそうです。このお金でどうか少しでも多くの方が助かって欲しいと願わずにはいられませんでした。

アントン・プロクシェ治療施設では、アルコールや薬物中毒者に対してどのような治療を行っているかを教えていただきました。アルコール中毒患者は、集中力が低下しているので、長時間掃除したり、絵を描いたり、何かを造ったりする作業を通して何かしらの技

術を身に付けることで楽しみを知り、施設の方々と一緒に探した職業で、退院後スムーズに働いて行けるように準備するのだそうです。治療を終えて退院しても、禁断症状との戦いが一生続きます。過去に33年間飲酒を断ち、もう大丈夫だろうと思って飲んだたった一杯のビールで再発した人もいると聞いて、中毒という症状の重さを痛感しました。「直すということはできないけれど、生き方を学ぶことはできる。だからそれが目標なのです。」という言葉の強さに深い印象を受けました。

そしてウィーン滞在最終日には、天野大使が私達を大使公邸にお招き下さり、昼食を頂きながら色々とお話をして下さいました。私達のために時間をとって下さったことに驚き、嬉しく思いました。

この滞在で、私は今までとは違う視点から考えることができました。世界中に自分の欲を満たすために、弱い立場にある人の生活に入り込み、薬物を広めている人間がいる。人間が人間を壊しているという悲しさ。許すことのできないこの事実を、目の前に突きつけられた思いがします。今の私にできることは、ちっぽけなことではしかないのかもしれないけれど、自分の身近なところから、できる限りの力で活動を行っていきたいと思います。

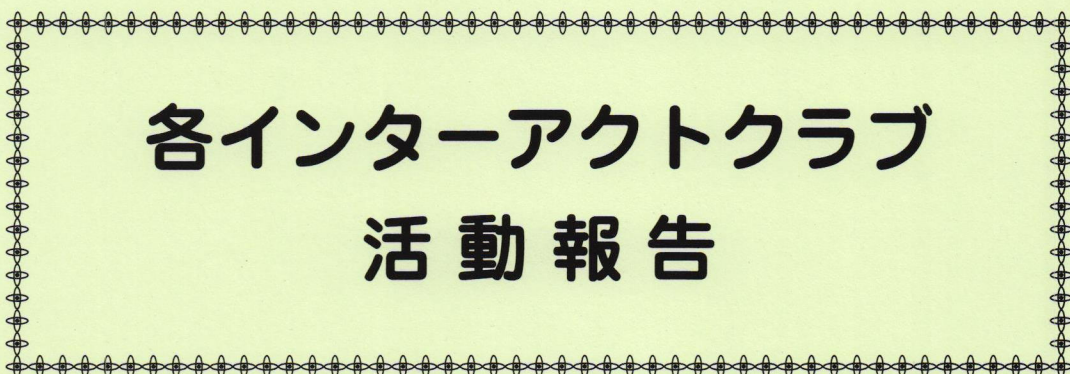
最後にこのような貴重な体験の機会を与えて下さった皆様方に厚くお礼を申し上げます。



国連センターにて 平和と麻薬撲滅の鐘



アントン・ブレイゲルグ高校 交流会



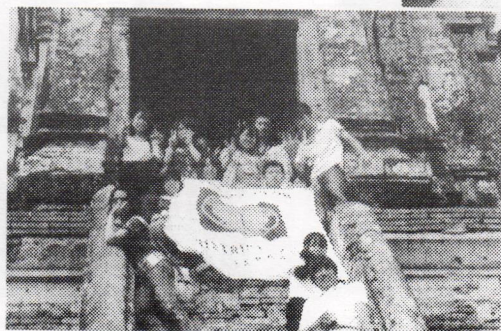
各インターアクトクラブ
活動報告

清風学園インターアクトクラブ

清風学園インターアクトクラブは大阪南ロータリークラブの提唱により、1975年7月に創部されました。現在登録部員数は高校生17名、中学生4名の合計21名で、毎週土曜日2時間ほどの活動をしています。最近では各学年、各科、各クラス補習授業があり、なかなか全員が一堂に集まることができなくなり、まとまった活動ができなくなって困っています。国際奉仕をモットーに国際理解を図るため、普段は英語での簡単な自己紹介やちょっとした日常会話の勉強をしています。また長期留学生（1年）や本校の姉妹校であるイギリス・オーストラリア・中国からの交換留学生が、日本での学校生活で困らないように手助けをしたりします。

今年、6月新入生歓迎会では、同地区7校の仲間たちと、楽しくバーベキューをして、親睦を深めることができました。今年9月上旬の文化祭では、例年同様、献血運動や盲導犬育成基金の募金活動を行いました。それ以外にも、「アジアに井戸を」の募金活動、また、少しずつですが、「日本ユニセフ協会」と「国境なき医師団MSF」への寄付もずっと続けていくつもりです。

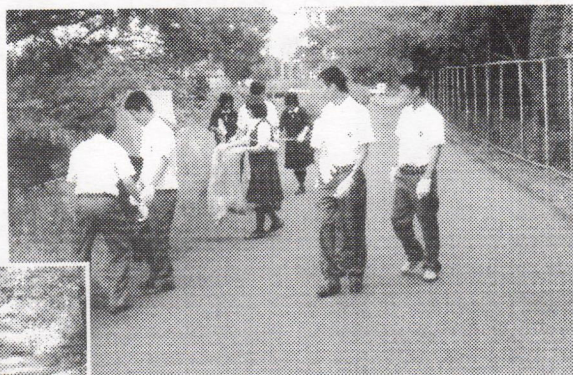
最後に、タイ海外研修では、歌や、ソーラン節、タイ伝統舞踊等の交流を通じて、楽しく充実した交流会を持つことができました。言語文化の異なる同世代の同じ目的を持つ多くの仲間たちとの友好親睦を、深めることができました。



大阪桐蔭中学・高等学校インターアクトクラブ

大阪桐蔭インターアクトクラブは、1983年秋に大東ロータリークラブの提唱で発足しました。部員は中学生8名、高校生13名の計21名です。主な活動は月1回のミーティングと学校周辺の通学路での早朝清掃活動、提唱ロータリークラブの先生方においていただき、活動報告をし、卓話をちょうだいする例会などがあります。今年の文化祭では、幼くして親を亡くした子どもたちを支援『あしなが学生募金』を実施し、みんなに呼びかけ、合計43,423円ものご支援をいただきました。今年の入学式、卒業式では式場に向かう新入生や卒業生、来賓の方々にあいさつをしました。「ご苦労様です」と返事をもらったときは、とてもうれしい気持ちになりました。また、先月に実施したクリーンハイキングでは、生駒山のふもとからゴミを拾いながら山頂の方までに登り、そこでカレーライスを作ったり、ゲームをしたり、楽しいひとときを過ごしました。毎年1月には書き損じはがきの回収にも取り組んでいます全校生徒に理解と協力をお願いして、回収したはがきを大阪府視聴覚障害福祉協会に送り、収益金を盲導犬の育成資金に充ててもらいました。

以上、ごく簡単にではありましたが、活動報告とさせていただきます。今後も部員一同、積極的に様々な活動に取り組んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。



浪速中学・高等学校インターアクトクラブ

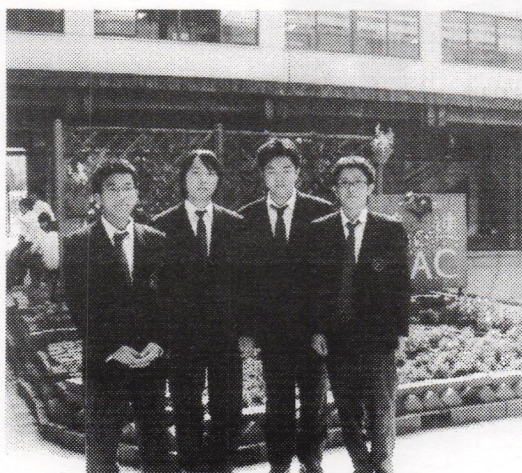
浪速高校インターアクトクラブは1982年に結成され、現在部員は2年生が2名、3年生が4名の計6名です。

主な活動は1年を通じての学校花壇の製作、文化祭ではWWFの募金活動、海外研修にむけての週2階の英会話のレッスンなどがあります。

花壇の製作は年4～5回。季節ごとに作り変えます。毎年、文化祭にはその年のテーマにそった花壇に作り変え、来場者の目を楽しませています。

WWF募金は創立以来の活動で募金総額は100万円を突破しました。また大きな災害がおきたときには、生徒自治会とも協力して校内で募金活動も行います。

部員数は少ないながら今後も積極的にいろいろな活動に参加していきたいと思っていますのでよろしくお願いします。



四天王寺高等学校・中学校インターアクトクラブ

私達、四天王寺高等学校・中学校インターアクトクラブは、1983年に大阪阪南ロータリークラブ提唱の下に結成されました。現在中学生10名、高校生14名合わせて24名で活動しています。

主な活動としては、週1回の例会、週2回の校外清掃がおもな活動です。

本年度は2660地区の新入生歓迎会は、羽衣青少年センターでバーベキューづくりをしながら他校のインターアクターたちとの親睦を深めました。毎年7月に大阪阪南ロータリークラブとの交流会では、ボーリングを一緒に楽しむことが恒例になっています。8月3日から7日まで海外研修に参加させていただき、タイのインターアクターと楽しい時間を過ごすことができました。思い出に残る海外研修でした。

その他に、全校生徒に呼びかけて、障害をもつ人の作品の購入や、書き損じはがきの回収に協力してもらっています。9月の文化祭ではバザーやユニセフ募金に協力しました。

10月には上六近鉄駅前や、四天王寺境内で赤い羽根の街頭共同募金にも参加しました。12月にはロータリーの家族会のクリスマス会に招待していただいています。3月には卒業生の送別会を行っています。私たちは、人の役に立てるように、これからも、精一杯活動して行くつもりですので、どうぞよろしく願いいたします。



金光八尾中学・高等学校インターアクトクラブ

金光八尾インターアクトクラブは現在9名の部員で活動しています。

まず今年度の最初の活動は2660地区の新入生歓迎会でした。今年は新入生も4名参加して、バーベキューを通じて交流を深めました。最初は戸惑いもありましたが、共同作業を通じて、インターアクトクラブの雰囲気にも慣れました。

次の活動は7月の猛暑の中行われる夏期奉仕活動です。これは金光八尾のインターアクトクラブが設立されてから15年以上も続く活動で、本校の前を流れる玉串川や近隣の公園の清掃を行うもので、インターアクト部員は活動の企画と道具の管理・そして当日の監督を行います。今年はさらに、これに加えて2年後の年次大会に向けて、環境問題に対する取り組みも始めました。具体的には、水質調査や水性生物の捕獲を行いました。思ったのは水は透明に見えても、科学的には結構汚れているのだということです。

そして、9月に行われた文化祭では、この水質調査の結果を発表するとともに、捕獲した魚や貝などを水槽で展示し、多くの人に学校の周りの環境に興味を持ってもらおうというもので、2日間を通じて、100人以上の見学者が来場し、大成功でした。特に玉串川に住んでいる魚を全部展示した大水槽は人だかりができる程でした。今後は、玉串川に生息している、絶滅危惧種のメダカを増やし、放流事業などに取り組んでいきたいと思えます。

さらに8月には、海外研修に金光八尾からは4名参加し、貴重な体験をしました。特にタイのインターアクトとの交流は思い出深いものばかりで、帰国した今でも様々な形で続いています。

また、海外研修に備えて、土曜日の午後には顧問の先生の指導の下、英会話の練習も行っています。これからの国際交流に向けてこのような取り組みも今後、頑張っていきたいと思えます。

以上が金光八尾インターアクトの活動報告です。



相愛中学・高等学校インターアクトクラブ

私たち、相愛インターアクトクラブは、4年前に大阪ロータリークラブの提唱で設立された、まだ新しいクラブです。中学高校生徒執行部14名が中心となっていて、現在23名の会員で行っています。そのため、生徒活動と重なる面も多くありますが、それぞれが共に頑張っています。週に1度例会を行い、「街美化」という私たちの学校に面している御堂筋を清掃する活動に積極的に取り組んでいます。ビジネス街ということもあり、たばこの吸い殻が非常に多く落ちていますが、みんなが気持ち良く通れるようにしたいという気持ちで、一所懸命ゴミを拾っています。

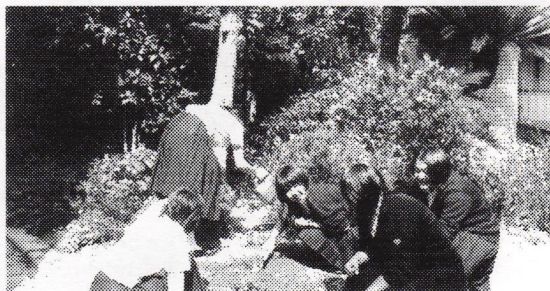
そして、入学式前と文化祭前の年2回、学校の花壇の植え替えを行っています。今年の夏には合宿を行い、花壇の整備と今後のインターアクトクラブの活動方針や内容について話し合いました。

8月には、年1回の海外研修でタイへ行き、3350地区のインターアクターとの交流や、タイの遺跡や文化に触れるなど、大変有意義な時間を過ごすことができました。

そして9月には、リーガロイヤルホテルで行われた「大阪ロータリークラブ例会」に参加し、海外研修実践報告をしました。

今年度は、4年目だったのですが高校生全員が新入生だったため、とまどいもあり、皆さんにとっても力を貸していただいた面が多くありました。この経験を生かして、次年度もクラブ員一同、力を合わせて活動していきたいと思っていますので、よろしく願います。

以上、簡単ではありますが、活動報告とさせていただきます。



**2006～2007年
RI2660地区
インターアクトクラブ名簿**

2006—2007年度 RI2660地区インターアクトクラブ名簿

【地区インターアクト委員会】

役 職	氏 名	所属クラブ
新世代合同委員会議議長	井 上 暎 夫	千里ロータリークラブ
地 区 委 員 長	田 中 啓 之	大東ロータリークラブ
地 区 副 委 員 長	大 戸 道 彦	大阪住吉ロータリークラブ
地 区 委 員	廣 内 謙	大阪南ロータリークラブ
地 区 委 員	谷 野 清 孝	大阪阪南ロータリークラブ
地 区 委 員	吉 本 憲 司	八尾ロータリークラブ
地 区 委 員	上 野 昌 也	大阪ロータリークラブ

【各インターアクトクラブ例会・日時・会場】

クラブ	例会日	例会時間	例会場
清 風 学 園	土	2:00	教 室
大阪桐蔭中学・高等学校	金	5:30	教 室
浪速中学・高等学校	第1・3月	3:45	地学教室
四天王寺中学・高等学校	金	1:00	多目的教室
金光八尾中学・高等学校	第1土	1:00	第2学習室
相愛中学・高等学校	土	放課後	生徒会室

【清風学園インターアクトクラブ】

ADDRESS : 〒543-0031 大阪府大阪市天王寺区石ヶ辻町12-16
 PHONE : 06-6771-5757 FAX06-6772-3882
 SPONSORCLUB : 大阪南ロータリークラブ
 ADDRESS : 〒542-0076 大阪府大阪市中央区難波5-1-60 スイスホテル南海15階1503号
 PHONE : 06-6646-5228 FAX06-6646-5289
 FOUNDED : 1975年7月22日

大阪南ロータリークラブ インターアクト委員会

氏名	役職	氏名	役職	氏名	役職
廣内 謙	委員長	力身 総一郎	委員		
寺崎 泰彦	委員	塚本 邦彦	委員		

清風学園インターアクトクラブ

《顧問》 中村 明夫・池田 茂人・門田三生夫

氏名	役職	学年	氏名	役職	学年	氏名	役職	学年
中嶋宗一郎	会長	高2	平山 大祐		高2	山田 泰士		高1
広瀬 浩明	副会長	高2	百村 誠彩		高2	斎藤 仁		中1
村上 勝俊		高2	吉田 征二		高2	稲田 晃久		中2
原口 貴臣		高2	松地 大輝		高2	山本 陽介		中2
佐々木良輔		高2	富田 雄介		高2	安達 佑		中1
中西 祐貴		高2	峠口 侑哉		高1	高橋 直熙		中1
三好新太郎		高2	横井 克俊		高1			
吉村浩太郎		高2	森 久和		高1			

【大阪桐蔭中学・高校インターアクトクラブ】

ADDRESS : 〒574-0013 大阪府大東市中垣内3-1-3
 PHONE : 072-870-1001 FAX072-875-3330
 SPONSORCLUB : 大東ロータリークラブ
 ADDRESS : 〒574-0046 大阪府大東市赤井1-2-12 ポップタウン別館内
 PHONE : 072-875-1200 FAX072-875-0590
 FOUNDED : 1976年6月8日

大東ロータリークラブ インターアクト委員会

氏名	役職	氏名	役職	氏名	役職
田中 啓之	委員長	小川 芳男	委員	成田 隆志	委員
木田 真敏	副委員長	大東 弘	委員		

大阪桐蔭中学・高等学校インターアクトクラブ

《顧問》 仲谷 浩一・亀井 貴洋・富松 恵

氏名	役職	学年	氏名	役職	学年	氏名	役職	学年
鈴木 江梨	会長	高2	今村 元気		高1	三牧 優作		中3
山岡 真子	副会長	高2	中西 ゆう		高1	西田 真隆		中3
田嶋 允貴	副会長	高2	東原 句実		高1	古川 達也		中3
岩本 行弘	幹事	高1	野村保奈美		高1	山添 剛志		中3
浅沼 佑	幹事	高1	森 美浪		高1	竹中 久悦		中3
木村 美咲		高1	岸本 理紗		高1	遠藤有梨沙		中2
杉原 聡美		高1	白川 夕貴		高1	瀧上 実紗		中2
美濃 真澄		高1	上住 卓		中3			

【浪速中学・高等学校インターアクトクラブ】

ADDRESS : 〒558-0023 大阪府大阪市住吉区山之内2-13-57
 PHONE : 06-6693-4031 FAX06-6693-6511
 SPONSORCLUB : 大阪住吉ロータリークラブ
 ADDRESS : 〒545-0052 大阪府大阪市阿倍野区阿倍野筋1-1-43近鉄百貨店本店内
 PHONE : 06-6624-1111 FAX06-6621-8885
 FOUNDED : 1982年4月1日

大阪住吉ロータリークラブ インターアクト委員会

氏名	役職	氏名	役職	氏名	役職
大戸 道彦	委員長	下川 淑子	副委員長	代田 和一	委員

浪速中学・高等学校インターアクトクラブ

《顧問》大塚真紀子・木村 智子

氏名	役職	学年	氏名	役職	学年	氏名	役職	学年
泉 俊行	会長	高3	竹内 義宏	会計	高3	尾上 律男		高2
青木 辰之	幹事	高3	金川 尊光		高3	山川理佳子		高2

【四天王寺高等学校・中学校インターアクトクラブ】

ADDRESS : 〒543-0051 大阪府大阪市天王寺区四天王寺1-11-73
 PHONE : 06-6772-6201 FAX06-6773-4113
 SPONSORCLUB : 大阪阪南ロータリークラブ
 ADDRESS : 〒543-0055 大阪府大阪市天王寺区悲田院町8-11 新和興産ビル302号
 PHONE : 06-6772-5816 FAX06-6779-7956
 FOUNDED : 1983年3月17日

大阪阪南ロータリークラブ インターアクト委員会

氏名	役職	氏名	役職	氏名	役職
汲田 英明	委員長	西本 正亮	副委員長		

四天王寺高等学校・中学校インターアクトクラブ

《顧問》 岡 宏治・白崎 貢・野口 弘・谷本 幸子

氏名	役職	学年	氏名	役職	学年	氏名	役職	学年
柴田 美波	会長	高3	瀧野 友未		高1	片岡 千枝		中3
安賀 真生	幹事	高2	田中 真弓		高1	中井 愛美		中3
辻 有輝子	会計	高3	森川 莉江		高1	栗原 律子		中2
大谷 祥代		高3	堀内 春那		高1	澁野 友里		中2
町田 真優		高3	谷村 桃		高1	福井 晴那		中1
井上 和美		高3	坂本 慧		高1	小西みのり		中1
松山 瞳		高3	藤田 有可		中3	松本有香子		中1
島津 史奈		高3	山中 唯		中3	奈良 祐子		中1

【金光八尾中学・高等学校インターアクトクラブ】

ADDRESS : 〒581-0022 大阪府八尾市柏村町1-63
 PHONE : 0729-22-9162 FAX0729-22-4496
 SPONSORCLUB : 八尾ロータリークラブ
 ADDRESS : 〒581-0003 大阪府八尾市本町2-2-8 八尾市商工会議所2階202号室
 PHONE : 0729-91-2129 FAX0729-24-0010
 FOUNDED : 1987年7月29日

八尾ロータリークラブ インターアクト委員会

氏名	役職	氏名	役職	氏名	役職
正野 憲	委員長	吉本 憲司	副委員長	鈴木 脩弘	委員

金光八尾中学・高等学校インターアクトクラブ

《顧問》金崎 桂悟・柏原 弘和・中西 久也・藤田 洋輔・和田名保子

氏名	役職	学年	氏名	役職	学年	氏名	役職	学年
須齊 正也	会長	高3	佐藤 亜美		高2	野島 由紀		高1
木田 洋介	幹事	高3	藤井 智也		高1			
後藤 大輔		高3	新井 麻奈		高1			
松本 陽祐		高3	大野あずさ		高1			

【相愛中学・高等学校インターアクトクラブ】

ADDRESS : 〒541-0053 大阪府大阪市中央区本町4-1-23
 PHONE : 06-6262-0621 FAX06-6262-0534
 SPONSORCLUB : 大阪ロータリークラブ
 ADDRESS : 〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島5-3-68 リーガロイヤルホテル418号室
 PHONE : 06-6448-1121
 FOUNDED : 2003年9月3日

大阪ロータリークラブ インターアクト委員会

氏名	役職	氏名	役職	氏名	役職
上野 昌也	委員長	生駒 伸夫	委員	山本 一樹	委員
松岡 一郎	副委員長	立野 純三	委員	山本 良一	委員
小浦 芳生	副委員長	辻 芳樹	委員	湯木 潤治	委員
廣田 俊夫	委員	上山 直英	委員		
本田 善造	委員	山本 晃敏	委員		

相愛中学・高等学校インターアクトクラブ

《顧問》川西 清史・井上 泰朗

氏名	役職	学年	氏名	役職	学年	氏名	役職	学年
合田 宏江	会長	高3	鶴見 奈央		高3	西成 彩夏		中3
幡田 真衣	副会長	高3	辻井真優子		高1	原 由恵		中3
森田はる美	幹事	高3	北野美津子		高1	森内友莉恵		中2
藤村 聡美		高3	北村 菜摘		高1	澤田 茜		中2
小谷 真央		高3	中村あゆみ		高1	山本 里織		中2
芳村 志織		高3	松田 麻里		高1	桑原 沙英		中2
平原 寛美		高3	西沢 裕希		高1	山元 郁香		中2
掘 香菜子		高3	橋本 幸枝		高1			

編集後記

この1年を振り返って一顧問としての雑記を述べさせていただきます。海外研修ではタイのインターアクターとの出会いがありました。一人一人の心に深く刻まれた思い出。目には見えない大きな宝物を袋に詰めて帰国できたのではないかと思います。年次大会では、普段体験できない貴重な時間を過ごす中、身体に障害を持った方々に接することで、各人に心のバリアフリーが達成できたと思います。人としての幅が広がったのでないでしょうか。このような経験の下、今後、さらに各学校でのクラブ活動に繋げていくことが必要だと感じました。各校の部員が積極的に活動を模索して顧問を動かし、実行することが大切です。新入生歓迎会では、各学校のインターアクター達と顔を合わせ、同じ目的で活動していく仲間達と食事をしながら、楽しく交流ができたと思います。それぞれの幹事長に当たられた各学校の皆さん・各提唱ロータリークラブの先生方には心より御礼申し上げます。

インターアクトクラブの良い点のひとつとして国籍・年齢・性別の枠を超えてたくさんの人達と交流を持てることが挙げられます。今年度も活動を通して多くの方々との出会いがありました。中学、高校生はまだまだ狭い中での生活に過ぎません。これからは出会いを大切にインターアクトクラブの活動に積極的に参加して下さい。一顧問としてインターアクトクラブの皆さんが日本を背負う優れた人格者となることを期待しています。

インターアクトクラブの活動はロータリークラブの支えがあってこそです。改めてこの場をお借りして感謝申し上げます。今後もインターアクトクラブを支えて下さることをお願い致します。

最後になりましたが、このスクラム編集・発刊に当たり、ご協力頂きました第2660地区インターアクト田中委員長をはじめ、ロータリークラブの先生方、各校顧問の先生方に御礼申し上げます。

大阪桐蔭中等学校
インターアクトクラブ
顧問 仲谷 浩一

発行 R. I. 第2660地区インターアクト委員会
担当校 大阪桐蔭中学・高等学校インターアクトクラブ
編集者 田中 啓之（地区委員長）
発行日 2007年3月
印刷 株式会社ひらたオフィスサービス

